

平成29年度三重大学教育学部附属幼稚園 自己評価書・学校関係者評価書

取り組み		評価と達成状況	学校関係者評価	今後の課題と改善
保育	<p>幼児理解に努め、一人一人の幼児の発達を支える幼稚園づくりに努める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育について全職員あるいは学年で話し合い、月案や行事の検討や幼児一人一人の育ちや支援についての情報交換を行う。 ・幼稚園経営に全教職員が積極的に参加し新しい事にも意欲的に取り組む。 ・効果的で適切な学校運営のため、園務や委員会の見直しを実施するとともに事務業務や会議運営について更なる効率化を図る。 ・「教師としてレベルアップするための基本姿勢」「幼児に接する際の基本姿勢」を意識して保育する。 ・教育活動についての反省を今後の保育につなげる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・月案や行事の検討を通して、クラス間、学年間の保育内容のねらいの確認や調整をし、3・4・5歳の幼児の発達を見通した保育計画を立て実践することができた。 ・それぞれの担当教員は、自分の担当分掌をリードしつつ、全職員で共通理解を図りながら声を掛け合って保育・業務を進めていけた。反省をしっかりと踏まえつつ、よりよい保育を目指す志を常に持つことができた。 ・行事計画や園務については、従前を踏襲していくのではなく、昨年度行っていたことを今一度見直し、今年度の状況や子どもの姿に沿うよう効率化・有効化を図っている。 ・保育を進めていく中で、これまでしたことのないことにも挑戦していこうとし、幼児にとって楽しい遊びとして様々な活動を行うことができた。 ・支援が必要な幼児については、今その子にとって何が必要か、どんな支援が大切になっていくかを、教員間で話し合ったり意見交換したりしながら保育にあたった。一人一人に合わせた活動や支援が大切だということを改めて共有できた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保育に関して、三重県の幼児教育の本質を示しており、本来の幼児教育はどういうものかを体現しているといった面で高く評価できる。学びの場として幼児教育関係者、公立、私立幼稚園、保育園、こども園が集まり、一緒に保育について研修できる貴重な場となっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新幼稚園教育要領の内容理解、職員間での共有を推進し、それに基づいた指導計画の立案、実施、評価改善を行っていくようにする。
	<p>教師間の連携を深め、力を合わせて教育目標の達成に取り組み、それぞれの個性を發揮した豊かな園環境づくりに努める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・同僚性・協働性を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・会議等では、個々の意見を前向きにとらえ、課題を解決し実現しようという姿勢があった。発言しやすく、安心して参加することのできる雰囲気を作られていた。 ・教職員数が少ないこともあり、教職員間の密度や連携は非常に濃く、保育に関する報告・連絡・相談や情報共有はこまめに行われている。 ・スキルアップ研修を通じ、それぞれの得意分野を紹介し合うことが興味のあることを得意分野まで昇華させることにつながる可能性を感じた。 ・園庭の“音が鳴る環境”作りや砂場の遊具の設置において、担当者のリードの下で共に考え、取り組めたことが同僚性の高まりにつながった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「公開保育研究会」のみならず、「相互参観」や講師先生を招いての参観、研修で自らの資質を高めようと努力する姿勢が評価できる。 ・附属学校の存在意義が問われている現在の状況を考え、積極的に幼稚園教育を他校へアピールしていくような取り組みを今後も期待する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教員一人ひとりの保育の質を高めるための取り組み(相互参観、公開保育等)を継続して行う。 ・各教員の持ち味を生かすことで同僚性を高め、互いの保育に取り込めるような研修の機会を増やす。
研究	<p>保育研究を活発に行い、その成果を実践に生かし、さらに地域に公開する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究テーマ「夢中になって遊ぶ姿を支える教師の援助 ～幼小接続を意識した3、4、5歳の学び～」の1年次である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・園内研修では、「夢中」や「学び」などの意味について考え、さらにそれを「10の姿」を参考に子どもの姿でとらえようとしてきた。細分化することでより具体的に子どもの姿を考える機会になった。 ・話し合う中で子ども理解について深める研修に加え、スキルアップ研修などの実践的な研修も実施したことで、双方をバランス良く学ぶことが出来た。 ・保育を語る会では本園の研究の目的や実践内容、研究方法等を発信することができた。 ・保育を語る会では文部科学省の先生を講師としてお招きしたことで注目を集め、三重県内にとどまらず全国各地から参加があった。分科会では意見交換が活発になされ、有意義な研究会となった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保育を語る会では、大勢の参加者の中にあっても園児が落ち着いて過ごし、仲間とも楽しそうに遊ぶ姿が見られた。教師の関わり、言葉かけもよく考えられており、日頃の研修の積み重ねを感じられた。今後も地域の教育研究を引っ張っていく存在であってほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・来年度は、公開保育研究会を予定しており、2年間の研究成果を発表する年でもある。現在の教育課題と附属に求められていることを意識しながら取り組んでいきたい。
連携	<p>大学の附属機関としての役割を積極的に果たす。学部教員との連携の在り方と方法を検討する。学部教員との連携を充実発展させ、さらに本園教員の教育力を高める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教育実習は例年よりも多い14名を受け入れた。それによって多くの学生に幼児教育の現場を見て学んでもらうことができた。多くの人数を受け入れたことで、実習内容および指導内容の課題が明らかになり、検討事項に気付くことができた。 ・毎年大学(学部教員、学生等)との連携をさせて頂いている。専門的な知識や技術に触れられる機会を持つことは幼児らにとっても教員にとってもその効果や影響は大きいものだと感じる。単発で終わるわけではなく、継続的に行っていることに大きな意義があると感じるため、来年度以降も続けていくべき活動だと感じる。 ・教職実践プログラムを通じて、幼児教育講座や保健体育講座はもちろん、音楽教育、美術教育を中心に大学の先生方とつながりを持たせていただけた。このつながりを互いのメリットに高めていけるようにしていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教育実習、教職大学院生の長期実習等、学生の実習や参観の機会も多く現場の教職員は多忙となるが、次なる保育者を送り出していくという重要な役割も担っていることを意識して、前向きに取り組んでいることは評価できる。 ・学部の教員にとって幼稚園から学ぶことも多く、幼稚園での学びを発信していくことも附属幼稚園の役割として大きい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・大学と連携した活動を推進するとともに、共同研究や大学の専門的な知見を学ぶ機会を確保していくようにする。
	<p>「一貫教育推進ビジョン」に基づき、教育課程検討委員会を中心とした部会で具体的な研究を推進する。各部会での活動を集約し、カリキュラムの作成に向けて検討を重ねる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・一貫教育では今年度は幼稚園が主幹となり、コーディネーターの先生を中心に会を進めている。カリキュラム作成に向け、それぞれの部会で活動をすすめた。 ・各校園のコーディネーターがリーダーシップをとることにより、各教科のカリキュラム作成に取り組んだ。今後、委員会の再編成とともに、さらなる充実が期待される。 	<ul style="list-style-type: none"> ・一貫教育についての意識が高まっている今、公立学校も進め方を模索している。附属学校がモデルを示していくことは大切である。柔軟な授業編成や合科的なカリキュラム等、附属だからこそ取り組めることもあるだろう。今後の取り組みにも期待する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校、中学校、特別支援学校特別支援学校に向けて幼稚園から積極的に発信し、学びを共有したり話し合いを重ねたりすることから子どもたちにとって充実した学びの保障につながるようにする。
	<p>保護者の子育ての悩みを受け止め、適切な子育て支援に努め、保護者との信頼関係を深める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・HPや園の便り、クラス便りでの情報発信 ・クラス懇談会や個人懇談の開催 ・降園時や連絡ノートを通して保護者の相談に応じる 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者に安心感をもってもらえるよう、様々な取り組みを試みた。クラスだよりでは、クラス子どもたちの様子だけでなく、その姿の中にどのような学びがあるのか、子育ての中でどのような大切な要素が含まれているのかなどを組み込むようにしてきた。 ・スマイルタイムや連絡ノートを通じて、家庭と情報を共有し、連携をとりながら子どもの育ちを考えていくことができた。 ・クラス懇談会では、日頃、降園時のホワイトボードでのお知らせや口頭での子どもたちの姿の伝達では伝えきれない姿を、写真を用いて視覚的に伝えるようにした。また、その時にも、楽しそうな様子とともに、その姿がどのような大切な学びを含んでいるのかということや、どのような姿につながっていくのかということも伝えた。 ・HPは定期的に更新し、主に行事での幼児の様子を発信しているが、個人情報保護の観点から、詳しい情報発信はあえてしていない。 ・保護者の生活形態や家族の在り方は多様化しており、それも踏まえた取り組みや対応が必要な時が度々あった。こうしたことの必要性を学び、今後活かしたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者との信頼関係を築き、深めるための様々な取り組みがなされており、安心して子どもを預けられる場となっていること、保護者支援の取り組みを高く評価したい。 ・保護者同士のつながりが充実するような工夫にも今後期待したい。 ・幼稚園から小学校、中学校までずっと成長を見守り、追っていけるのが附属の特長であることを生かし、追跡調査等も行ってみたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・懇談会や園からの通信等の内容を吟味し、保護者へ情報を発信したり保護者サポートにつながるようにしていきたい。 ・保護者の要望に耳を傾け、園児、保護者共により良い園生活が送れるよう工夫を重ねていく。
<p>未就園児親子の会「コアラの会」を定期的に開催する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・毎回テーマが定められ、季節に応じた活動や学生も含めた活動等が実施され、とても充実していた。 ・おおよそ月2回開催しており、地域の子育て支援としての場の提供は行っていると感じる。募集の際には定員以上の応募があり、地域の未就園児の保護者にとっては非常にニーズが高い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も地域に貢献できる附属幼稚園、地域の子育てセンターとしての役割を發揮できるように活動を充実発展させていって欲しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の幼児教育、子育て支援センターとして貢献できるような取り組みとして、未就園児の会の内容の工夫や、他の活動の実施等に取り組んでいきたい。 	